

小さなかめと小さな花たば

米川みちこ／作 斎藤博之／画



創作こどもらいぶらり

NDC913/東京・金の星社/1973
80ページ平均/22cm

- 1 グビーよみてごらん……斎藤洋子
- 2 かなしいぶんこ……若林利代
- 3 おきねこのヒロ……あめやともなが
- 4 とうねっこ物語……大竹藤雄
- 5 小さなかめと小さな花たば……米川みちこ
- 6 あふりかへいこう……大竹藤雄
- 7 あたらしいおかあさんがきた……つねかわゆきお
- 8 太一の海……平野ますみ
- 9 白いとうげの道……大谷勝義
- 10 どうよう日のともだち……蒲池恵美子
- 11 たろうの日記……川田進

1973年12月/発行©

発行者/斎藤佐次郎

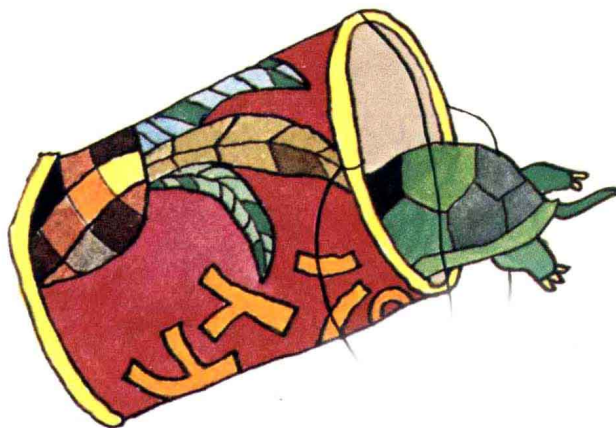
発行所/株式会社金の星社

東京都台東区小島1丁目4-3
電話/東京03-861-1506(代表)
振替/東京64678

印刷/有限会社協栄印刷所
製本/株式会社小林製本所

乱丁落丁本はおとりかいたしますので、お求めの書店または本社へお申し出願います。

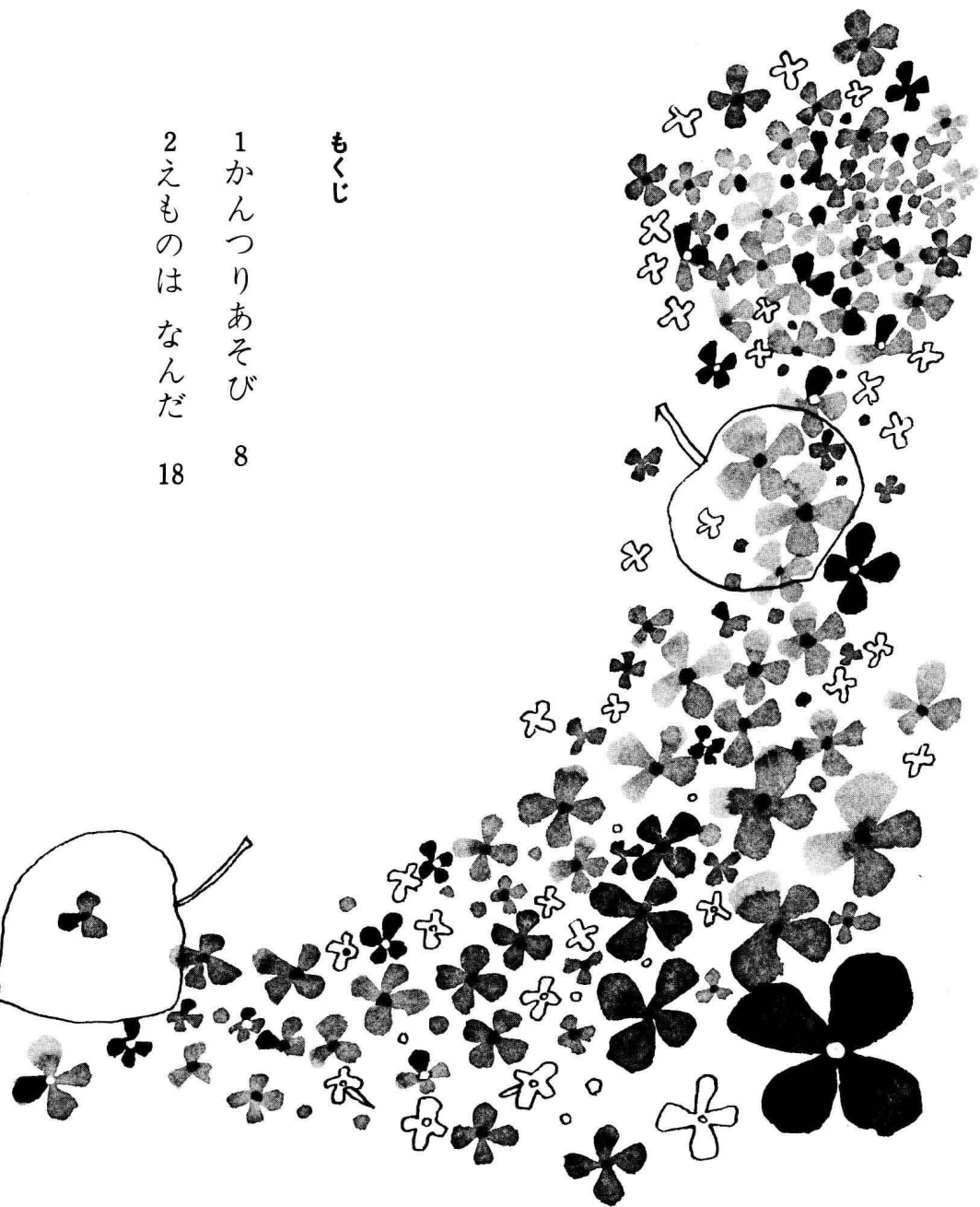
小さなかめと 小さな花たば



もくじ

1 かんつりあそび 8

2 えものはなんだ 18



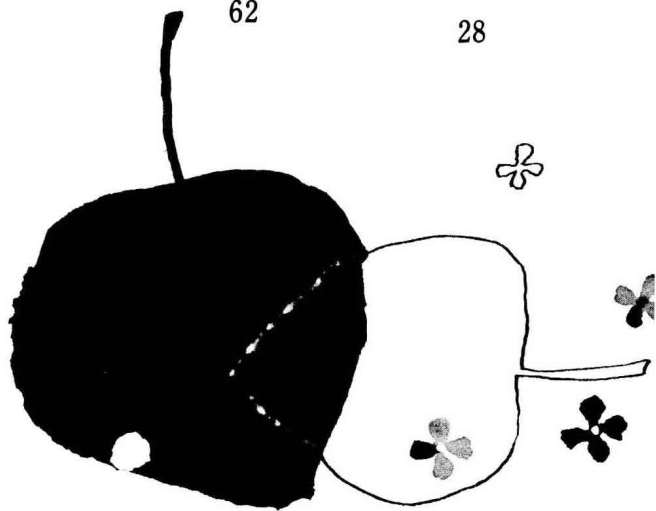
3 ゆきえちゃんにかめをあげる 28

4 ぼくのかめだ！ 35

5 ひろしの日記^{にっき} 52

6 小さなかめと小さな花たばと 62

あとがき 75





■著者紹介



米川みちこ
よねかわ

一九二六年、名古屋市に生まれる。三重県鈴鹿市立高等女学校卒。児童文学雑誌「湘南たんぽぽ」の同人。

坪田譲治主宰の「びわの実学校」に「ホロリさんのるすばん」などの短篇を発表。現住所・神奈川県藤沢市辻堂新町一〇五〇一〇

■画家紹介



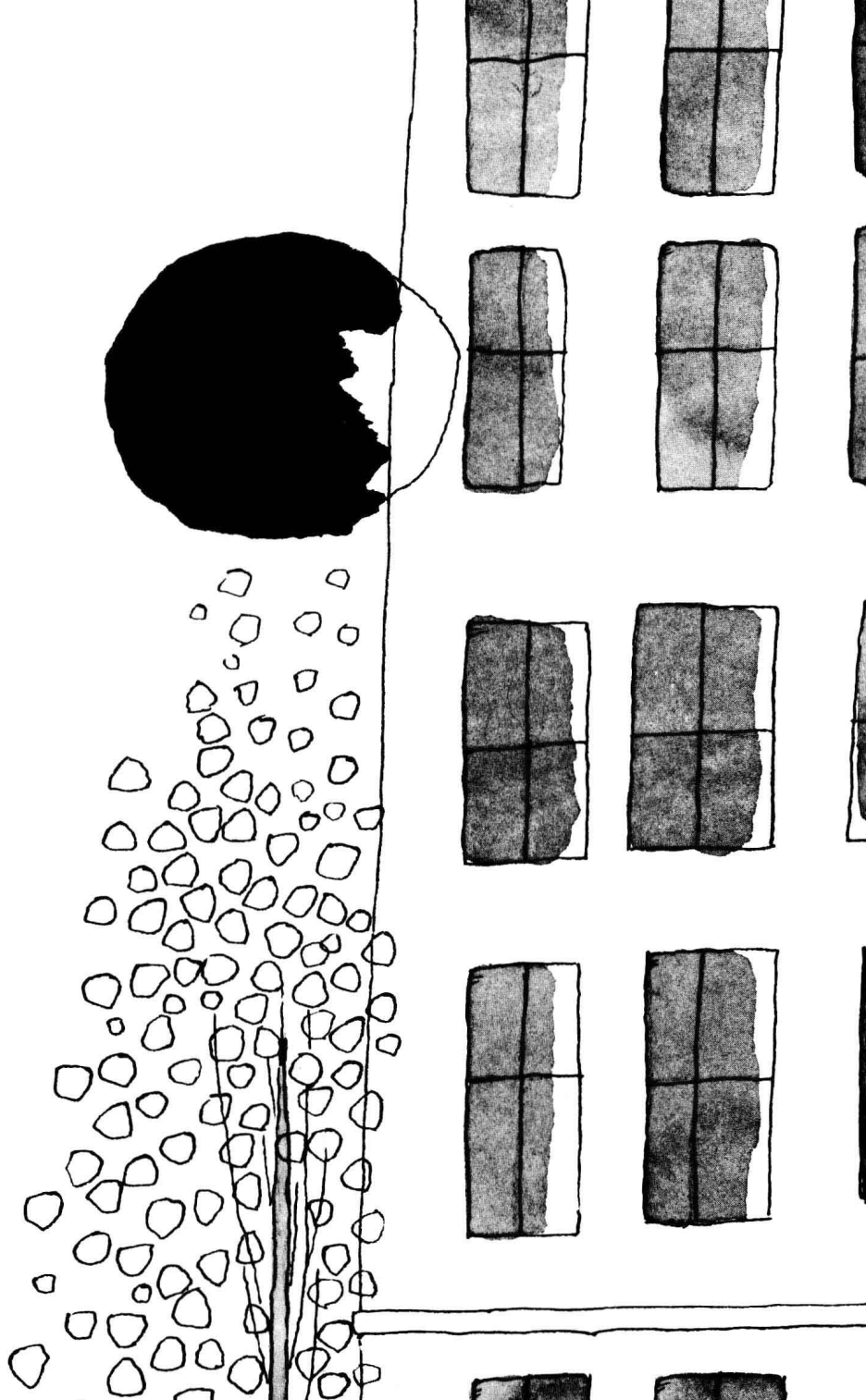
斎藤博之
さいとうひろゆき

一九一九年、満洲奉天に生まれる。帝国美術学校洋画科卒。野心的な油彩制作を続け、毎年個展を開いている。「火をふけゴロ八」

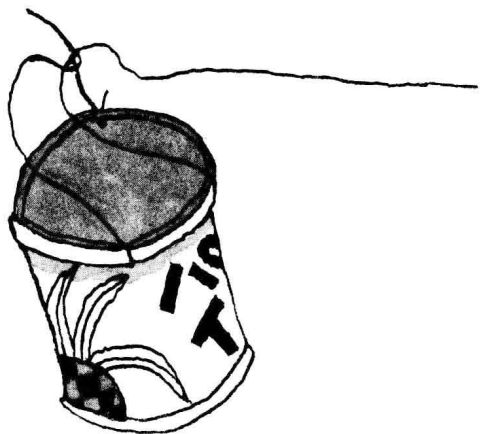
「教室二〇五号」絵本「しらぬい」など少女向け単行本・雑誌の挿画多数。現在、日本美術家連盟会員。

小さなかめと小さな花たば

米川みちこ／作 斎藤博之／画



かんつりあそび 1

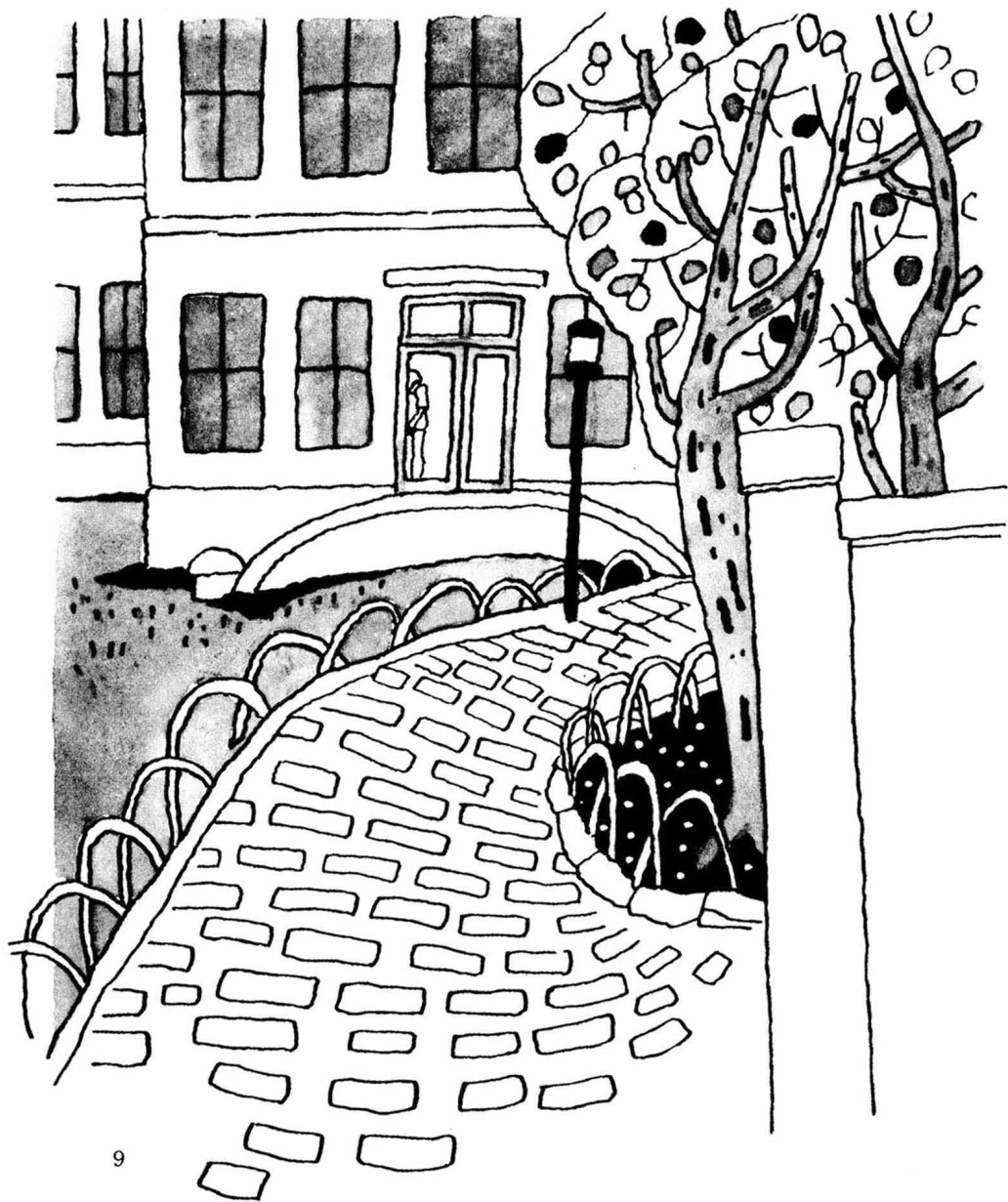


ひろしのうちは、病院の
きんじよの、けしょうひん
屋です。

二年生のひろしは、まい
朝、病院のまえをとおって、
学校へいきます。

かしの大木がしげり、水
ぎんとうや、ポストまで立
っている庭。

赤レンガの道が門からつ
づき、そのおくに、白くそ
びえている五かいだてのた
てもの。



バスからおりて、いそぎ足で、病院びやういんの大きな門をくぐっていく人たち。赤ちゃんをおんぶした女の人。こしのまがったおばあさん。ふろしきづつみをぶらさげたおじさん。

でも、その人たちが、赤いレンガの道にはいつていくと、なんだか、りっぱに見えてきます。

自動エレベーターもあるんだって！ れいぼう、だんぼうつきで、すみごこち、まんてんなんだって！

お店みせにきたお客きやくさんが、このあいだも、そう話していました。（あーあ、いちどでいいから、入院にゅういんしてみたいなあ。おかあさんだって、おとうさんだっていいや。そしたらばく、まい日、おみまいにいつてあげる。）

ひろしは、いつもそう思っていました。

でも、ひろしは、とてもじょうぶですので、入院にゅういんどころか、



かぜをひいても、おかあさんに、きざみねぎと、かつおぶしのあついおすいものを、つくってもらったのめば、すぐになおってしまいます。だから、この大病院だいびやういんには、きたこととはありません。

その病院びやういんの、子どもばかり入院にゅういんしている病びやうとう（病室のある）のろうかです。

おひるごはんがすみ、ろうかには、ほっとしたようすが

ただよっていました。

パジャマすがたや、タオルのねまきの子が、病室びやうしつのドアからのぞいたり、絵本えほんをかかえて、となりのへやにはいたり、ちようど、かわいいはつかねずみのように、ちよろちよろ、ちよろ、ちよろつと、うごいています。

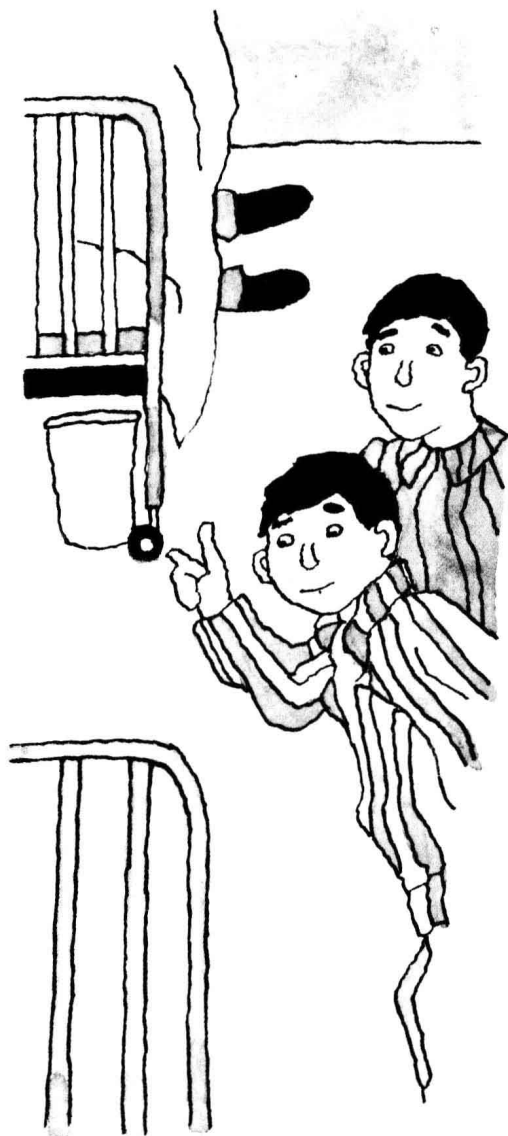
この病びやうとは、わりあい元氣げんきのある、子どものかんじやばかりなので、そのうちに、病氣びやうきであることをわすれてしまつて、おっかけつこをはじめ、かんごふさんに、しかられている子もいました。

やすおのへやは、六号室ごうしつです。

おひる休みをまちかねた、五号室のたいちゃんと、まさるが、さつそく、やすおのへやにあそびにきました。

たいちゃんと、まさるは一年生。たいちゃんは、もうちょうで、まさるは、ぜんそくもちです。やすおは一年上の二年生。病気^{びょうき}は、きゆうせいじんえんといって、顔^{かお}や手足が、むくんでくる病気です。でも、もう、ねつもむくみもとれ、やすおの退^{たい}院^{いん}は、まちかでした。

やすおは男の子なのに、とてもきょうで、あやとりや、ハン



カチを千代紙ちよがみのようにおって
あそぶことがじょうずなうえ
に、あたらしいあそびをかん
がえだす名人めいじんです。

あやとりの、はしごのまん
中を、きゅーつと、つまみあ
げて、東京タワーとうきょうにしたり、
ハンカチをおって、バナナを
つくったりしました。ちゃん
と、四まいのかわがむけるバ
ナナです。

だから、やすおの病室びやうしつには、
ごはんのあと、いつも、だれ



かがあそびにきていました。
いま、みんながむちゅうに
なっているのは、かんつりで
す。かんづめのあきかんに、
あなをあけ、ながいひもと
おして、まどから地めん^じにぶ
らさげます。
かんから、かんからと、コ
ンクリートのかべをつたわっ
て、地めんについたあきかん
を、しばらくそのままにして
おいて、ひっぱりあげるの
です。

